宇津保物語

二十五

4241

830
30
107

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用

宇都保物語

塔時の院 二

山本國儀下巻

廿五

今板本十三の巻ノ五

古本五の巻

830
107

28. 8. 4

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用

大正
4. 7. 20
購求

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107
ガラス使用

よろこびあへりてあかしてたすけあるくらしけるまゝに
よい道つゝまいれば、きみさうまうしやくめしそへて
まうけあるかりあそびとほくけれどもあそびつゝ
まいまうりさせて山ごもりのそでもかしきけれ
ゐんの物のこゑみよつりまつるあひとめしありめづらし
てはくだりのかうち、これゆくなりおもひなしにそらをひく
さゝらしめしてかの琴をとりいでて山風ひゞきみちけれ
おほうらいとはかれしてえさらうとぞいふしあきそゝろ
夕暮のそらあらはにまさりてこれきこしめしあさましう
きこれあへしのいとどとりしてまつりしとかいらせけ
まいるとてゆすれどもむれかはかむりてあひとりつれあり

こゝろにおほくれとくまつりてひとつをつかまつりしか
うなりみちよゆけいてまいめしたりつゝさせしかたえ
よしうけ給はりてきこえたりつゝてしたるもさふ
らひけるかしちくと世の中にめづらしくれとどまちみれはさ
こゝも行くぬふとどまりくれりてまゐりてあるくもまたも
仰なりしとて

吹あふるこゝろのうちの山ふく秋くさの琴のこゑ
あらかれしさゞ山ごとにひゞくなるはあらぬかな
音風のふきあはそゝらひも世にゆかし山風のしき
りゆゑひとりそふや大将も
りしきたのむかしのことをみまつれてかへしの

風もあしきゆゑでしく、中納言の君
君をのみしたひて、いゝ所ハ秋山も、ハ[illegible]もなく
成よけるゝ、右大臣[illegible]むしのそこえいるゝしわるを
とぐさぬりいく
七夕のあふ夜そわきも君をとしたきも公れ
めづらしきれ、つゝし
律師ナカヨリ
かゝりすくうつゝし身ぞこれをとてぬ山まで君
かゝひとぞ思ふ、中将
ニキマサ
君我ぞこれすしとすぞをしかしてしきれたしこれ
へもかりぬるゝ、むまのきけ
君よりしくなく袖れかゝ[illegible]ぬ[illegible]もみち

と罣人[illegible]ん、とさうず
風雑一
いかしへハ君かゝるをふみしいろ[illegible]やま
へにちりまふるゝとて中将ハ[illegible]山ごとり[illegible]
ことごん[illegible]ちりまさまぞ[illegible]
右大将の[illegible]ぬ[illegible]のくらみさう[illegible]
そ[illegible]ら中に[illegible]ふさありせて、と
[illegible]ひ夜一よ[illegible]
所[illegible]と我う大我[illegible]
の山ぶしよ[illegible]ちりみ[illegible]
うして、[illegible]
くうあれよさせよろ[illegible]

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107　　ガラス使用

をまいりくもしらん山ごりり
かつりこれいふにはひのくるしさにもまちぞ
らいまるなれを大将
もてにしくあるとらされかりしさりしそそれみ
をみもぬるくさやかせし中納言
人らは我ぞかつりの中なりしいまもまつねとえ
やいくけり。難敵
よ我くらめかるりとあし我方さに浴しきひの
かにかつりつく中将
月まるひのをとらはあらなかりぬ物は神
ゆそをかる。をどの給つ。あそびあし給くて日やそく

古今
ナトテカクアフコカタミニナリ
ヌラム
和名抄

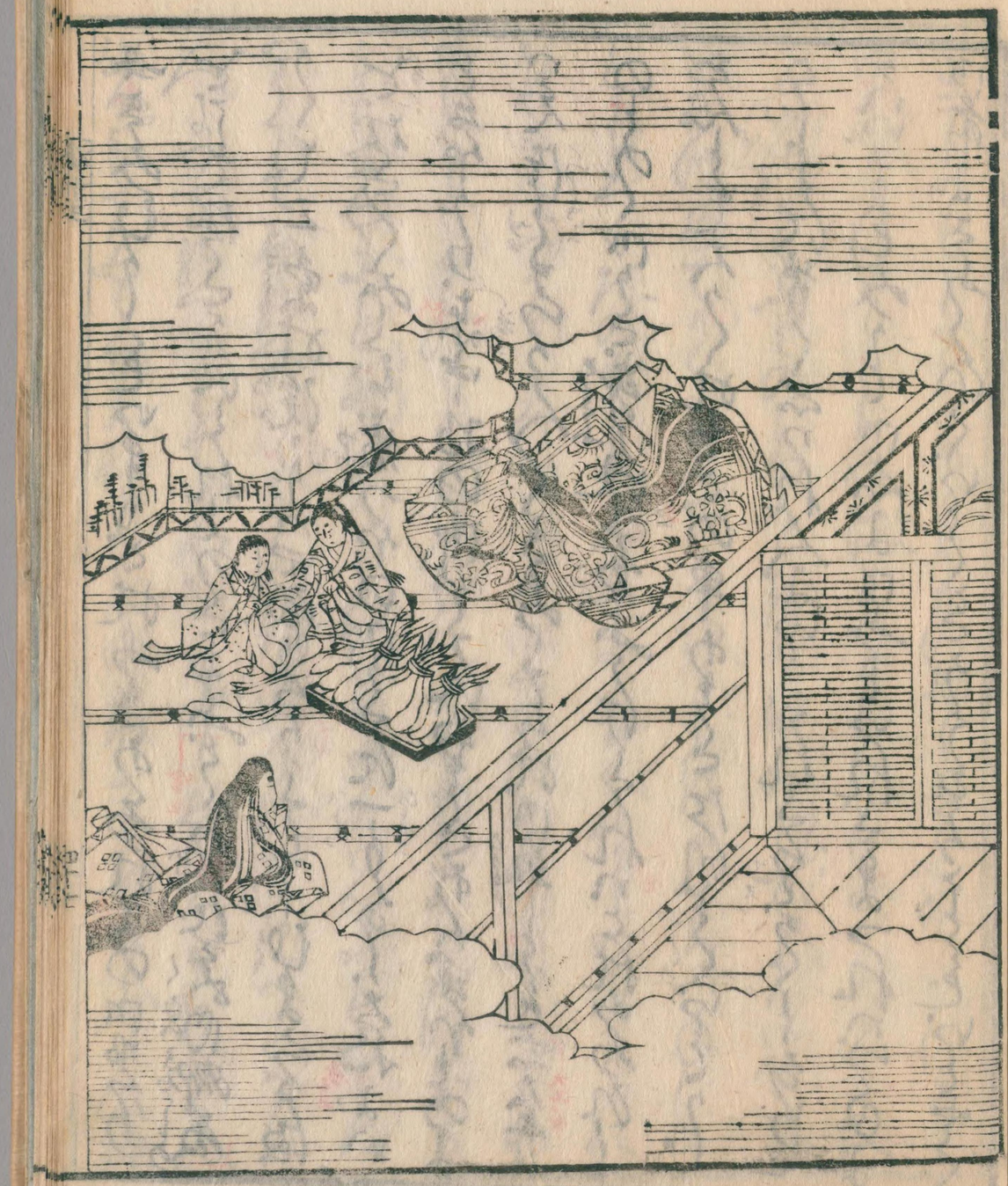
されかてゆくかどに。つねまの山ごとりの三まうにかる
の事しあつせ。いとさうにてうじて。むさとを物
せくかしいひまは大づりりぬかせく。ぬれくあをこ
あつくいまく。いとぬかくりさせ。なかびのどとよいぬい
まさせ。さをそにいれてりさせてゆうてて。山ぶしとめし
あのめく。いねさけくらせかしひあ我をとつくとうす
ねりさせ給へつまし。ひつそそ里の山ごとりにしそ
ゆうりさかふは。あのまはせうにどんのあしほあてを
まうをかうとあしてく。あつくのうちかなまつりしい
さしてうしこの山ぬるどよろのてうづくしいま
しうしこそあのまはかうづく一。うざりなくさよう

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107
ガラス使用

しられでうせたまへりとうけたまはりしか。されども
おしはらんぜさせ給ひては後の女御山へいくて山で
かへくのこそまうけたまひしかどもここ
まひくくみたるべきはさらば給はらんかう
べきさまにて中納言の母のきさきも物を
べきとてかくさぶらひしに参り給ふてまかてまれ
かならず はらはれきぬくもじ給はらをさうらそ
あんぜさせ給はじはのきてなにぞきたまへく。
給ふかしくなれしものなにてもまそいとたまを
まそまつりしかみくも侍りうれしきかりをそ
いまいくのかたらせをはらじ山のきくまうりなどなく
よかつひさこえんかもつけて物し給ふる原とは
さくも
仁寿殿のさむらひ給はくとしとくまかりけを
ら帝君さうそうへさぶらはれたる母北まうにそへ
のきみへつかしそこみくみなせ給へどもなれとのい
物ちこなかく御まつくまへこひさこ母れどもなふこ
給ちもあんいせんとくあんにくしそまうれ給ふどんなる君
こ給そいまくくるれく仁宮との給ふかくとかう
いとめくそくぞなやうはくゆるので給くすかちも
あんふはうるしう給ちうしよくへのやうみてとういでや
人まさんぬぐへきおほうとこをいまそくりさはんとぶ



いかでりさやうゐうさ夜ゆくぐらうゐぐゐよいりぐとこ
そお風ハそれをめしなん

風冬 修理大夫忠章女

却とりぬうよさじもいさやうゐをうすしあと
とく山の嵐をぞやふこれりゐ君まうへの給つ御う
にとりてくたてさつり給へぐぬまゝ給みまいとか
おりり。ゆやにをり給おぞられ君のりとにこよのてな
まふぞうもみなうまりて。ひさちくして
ひしなん

ひてさふらひ給て、なくくさふらひ給へハ、ゆゑぐ我をん
なぐ物かゝるなりにとれまひまきしよりらうしげなり
しかハ、あろよりといふだらうにゆかりしそくいかぐこれを
ざに人なるゝにとゆりひしよ、ある時ゑとゆめんよゆりと
ざし紀時もあり、あゝ時ゑいとゆりしき時もをこしよ
ち我いりぞゆりひてもそうしよ、これにまりて人のうら
みををいてづくよなるとつふと、人もさそ思ひて、実づる
いよいづしそそまぼ、やまうくぬうらやまれ、ゆゑまし人
のくひとりへよはらをとむとみくハ世にもやしらふ
無紀との給ひどに、あそにぬぬといふ君たちハよろ所
りさまして給とも、ぜへて我これまさうじ人もいふな

とのたまひて、その日れほとめくぬりて先にさしあを
里給、大夫我をなきうまかくれめ我ゑる無紀とて、も
ろともにへ給ぬまいざんだらハ左右のとづられなるを
えさきてなまどひまふまう給りなし、その日なる
つくさまつり給へとて結つひ、かくなんと給てゆまで
高もし給ひはゆまつり給ひぬよしとまさせ給へハ大きな
殿とめまで、それをまつり給ひ孫ばさらうくりめ勢ハい
まうくよかりになりにて、まハ我となと人よせふへこれ
あくばと物がしてまつり給ふ人のお物のさしとさへりん
のまけれさみる我まつりて物のきしきもあるいせよ、お
とよまつり給へとをつるうさぐひきとてまつらせ給へハ、

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107
ガラス使用

ひられ給ふ。かの物はうことをいふぞとて、ぬなとこなかりけるをきさ
まうそうらずこそ、みくひくりと、さひ仏まち給ふと
いふこゑをきくは、かくいふにおかひし給ひて、まで
きうけきいのあくゐとて、あき給へ、さんずいらわしとき
はなぐはあことおりまへ、ほとけは、かき海とおほくら
さくぐさ仰ありて、はかくときゝの人のもとへよよ
めしの給へは、せんにんさしてまいるよいわうのあるじより。
この仏とり給ひてかへりて、はゝせんにんしてうち給ふ
しまいのさかりふみをほりて、これかひとつよもさせ給
ふせんじのさかよ人よりきとなんあはせくれる。
とけさまにそれをひくにほう給ひ入りて給へり。

ありくいかゞたくまうにあれる給ひてうちにいうけ
はやちの給へば、仏てにかきそとや給へばへ
やつかなるをきはひかりしあなんをてふまうしき
し。仏はみなことのあたゝかなりてみなまへはからくあ
とはあさまをあへありて、いまあるをはいそれなりて給ひ
てみとせの年ばかりありて、はちまつりをはりてつくれ
はするは、うらくへのかえかくなん思ひたまへに、あれ
のあつらひ給ひて、されはこそとしあらのはちえれ
まへらるもはやまう給ふしと思ひつまとおやそく
ひとのあつかつれど、まつりもはいかくしうて、まつる
やうて、あまらのことも、まうり給へて、これもまめてうれて

れかするほどに、ゆくごさんだらさうぞくしきひとく、
うらつきてかりして、しん殿の保乃所にまうしなり
給ひ川二家とかしのさいようしなり給へばんさ
らとの人ひさいでしろうまつり給へばかさと記
たまれどしつらはまぬ所にまれまべきやうにしつら
はまぬ、所おはいと宮れ御まるはのごとしれど
これはかねてきしむやうなり、かうしもへなり給へ、ど
なうらへまつり給ぬ、うへはめのとうらはしは
なりしにも、みなまうでかきあげさうしたりおく
れにかさにはまいのにかさぐくしなまうり給ぬ、大家ゆくぐ
の或人にやれさうのかさまうらはしん殿にまうり

給ぬ、大将さくたまひて、このことにはよりがしらをえさ
しいそぐ、ぞさくおんかいくしき屋うはゆかされき、
三条はいうぐまうてく、かくさめ代うつるなとそ、う
ちへいそれまつり給ひぬ、右ゆかん殿中文よりかくの給
へれど、愛にもゆりひかれにざるべくはかうれ人のたら
にちうむまれあれまりたまはましやとしたトはいふ
ともまさにとゆかりしてかくなんと人にもしさまれば
あうちれなくひなく孫どん人はんをおかまじくよろぬ
抱三人ゆをわかせくだよ、何しとゆをかれぬまは人を
いうづうはなれ抱なりとそ、ゆかりしかさりつまはかく
なとともなれとゆかされ、されどもうちへもまゐ給ん

ど。新中納言は、とのゝみち給ひて。これよりは京極
し給ふ。まいのとくくらくあらて押し給ふ。それが
きよく給つぐ。山にと上がりいづる事も出来なり。さ
れどひとくのはとをしらぬのにあらつまへはと程
うたもおりなれはぐまへみて座もくをて給ひて。御
むかしおんの女御なれはもくにれほふとある。月あらはと
さはそにらき給つまへはらくそひしまへつるとをて御
かんうをし海つり多給しはる海こしん座あるん。出り
このはしたしさりときこのに出りあすけきつるかん。い
ろじうきやくらちもらぶつまりうんとまれはば使
しをあれ事されば。まのそへめよかをてある。い

くふあそすぢうてとそてさせんとるむとほえ
なとりまかせらぬ。れてまうせさるかまへけさ出来る
たいとのせそそこてみすんをそうにきはりまれそを
いふみてそ。いとよりつく。出そうへてまれ中ある
は出またら給へ。きもとくらぶそりへをそとむ。えてられ
は座そこをふよ出事かまみんは出れわくしむひとき
んとらをうへままふくさてゆふをとかりるまりて。ぞへしまて
さいりてうんきならめまとみゝまりまつり。中納言殿
そり事よへやうあきてやまいつまはそれあり食さや
まそてまてゐ。こちをそれとをかまみてらてむとさられ
るうれぶりめかへとさ二人づゝでしてうすとふ。殿と人

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107　　ガラス使用

かりたまふ。一人りとゝ一人なりぬ。それよりつゞく
れとかられ申侍いさかりまなりぬ。ゑろしをとの右
大弁れさこのうこうは喜哀のちじめの所。うくてきさ
ゆゑこやは御心まことよろ所ゆゑしたがりつれ。ことに
にちじめきこえ給しに。御かしきわしうりは。ことはさ
こし給ひさりしうばかり給ことゝとくはかくこゝさこえ
給ひさりけるまもうちはいとゆくしとゆゑをまゐ
ざりなし。このちうれみてしらずしなんはいはなり
ことゝもんなどゆゑして。おさくおんまいで給ぬ。女御は
うしとゆゑをる。むしよりこゝまなし。いかぐにくみさ
てく。おんのうちにもさふらせしとゆゑせとちうれお

とくをふろこゝろうたまちり給へは。みこしうち此御つ
ゆ様をしつゝ。屋んごとなれ人の御むすめをむかへは
乃家も宰相の御むすめをえ給へ。むかへくさふら
ひ給。我もくさようをしつゝ。めぐこれ御いさをい
なり。だん正れ家御めなきれどこのをうしゆゑ
ちよくなやある人我もくとまつりつゞくはそれしを
業にはさ雨くゆゑくさふらひ給。女御の御まゝにしや
しちつゞひくれうちは花をかりうろにとしてゆゑな
をまうはもよりおうあそびのうちり給へは。みどはあ
れをはらんしてきあしめすとそこなるにのこゆゑし
まして。一の家むかへて太将のあそびあつせく。

それしまぞ人はすり

そびとせさせたまふ。たくしげきそのくさまひちてたてくは
ちうちうれさんじうづゝみまゐりつゝゐまゐり給ふ。大
将もむかへたちも。おんよまゐりすみくくそとみくへきと
えのみやのきみと二のきみとせちよきおえん給へど。
いかでうしろめたくさとのきみのかうかへて
めうんざらめみてしらさど。めくしくいがりされいはむけ
まうしうへきいかにがくあらむかうしこゝまうで給へざる
これはかの殿へそひよりはうじかれかんそぬかぬ
こそはあはれがる事をみてはゞしかうてさらぬぞ
さ色ちくぬかりしこともきみにあるかなじ。いかがせとでく
いまはかくさめぬかなしかうじとしがりて。すぐくあんく

てかなしき殿にこそこれこそ侍りてこそきこや
のきたむこもりとおぼえまうしつ。いまはかれとのみいしわら
きんずらいもはす給はつるうゆくくてあやしく
なかの。あまにかくおもすくいぞしまひく秋のころかと。
まうさむよんがきそれとも月あかくなれ給ひて。んがで
くがりは。かくごとよくんにおりつゝかしれとひ給へ
ゐいくきむとそてまうり給ひぬ。あにまうりまいり
よかりてまつかぞとことく給へいかゝくる事と
きんきくしうとも。さあて給ひかど世中にのきり
わくぐ給ふまれば。かくてのきんやとのみ御給ひてるも
とのかりて。かくれとゞめ給へつやくしはきこえ給。かく

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107　　ガラス使用

給しかどにおなかはひまれおろはたくまれ給つるを
たくさきいはひしよりれきらはるとそ大きさい
くぎやうひとりしかくの給ひ女はかなりれか
やあとりと大きさいたる給まれまつるみこと給りて
君と御りとひとりしかしくさまこ給べしと
きあしめして人にものさまつぐしかひとりしかれ
してそれ日までとともせぐにはかよのこ給ふり
まりきさいのしかし君とみよ人のつひ給ふなり
まり君つぎのまつり給りぬまとよりの給ふ人は
しるけぐ人をとしにゆうのかくまとまつ給ふ
あし世きあし給りまに月ごろ給つるひをあてまつり

給ひてたちまへくは世のこゝろはしてんそれりつまく
とと給りてまうせ給へとさきをはくねはおさまし
うしづよ君人にもまうる世のの秋こそはまけぬべ
かれとくりくれまけるうくしてあみまれ
給ふまはどうちめづくしかりよろあひくみまれも
とにまちつぐよみてかたくまさしなどまはふまは
はうちかつりきあしても給かつるくうひくれを
みはとさにはうぎるましかはうる人もあやしかるし
とつゆよりれたゆしよはうしてもまぬべしや月で
ろはあるやうにもあらぬやとそ
山ひとのこゝろまうしを聖くれまうさしるを

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107　　ガラス使用

つりみりれてまいらん。すゑさせ給ひせ。いまやいかゝ
ふそれ給ひしありけん。よろこびし給へる御文給はし
ありそこらく給ひて。つらきことゞものこと〳〵そなたゝ
いで。まゐることゝもこらん給ひ給ふて。中納言宮ま
こゝ給ひ。給ひ給ふこゝろなん人〳〵しく給ひ女一の宮の
そ給ひ給ふすとゝもしろ。それをもて人給ひさま
へまうしつまう給ひてこそこらん給ひ給ひたく
もおいとや。民部卿の人はみかしこまりす人〳〵まさ
おもしろくやなりこそいはゝしきかたゝらことものゝ
給ひては三条のみやのこと民部卿中納言御まへこせん
ありさましてさうらふらくて御てうだい。かりてこと給ひ

あらそれはおんかしのくさみそなくらにかすみてゝ
ず。おほ君御まゐる給ひなれ。かくれは給ひける。ひめ君なれ
なれとなりけり人〳〵のくらいにへあるやみ給ふ。給ひてまゐら
さうく給ふ人はいとなるおとゝもまたいへ色にいづもてえ
すれまへまへるとも。おほとて君なれものゝあはれのことにいひ
ときたいとや。ひめ君あるみえてゆくあはれなるやまを
のたまへくきこえさせ給ひ給ひぬ。御車君なれ
宮に十。女御のなくさなれ。かくけさ。かゝるを給ふへし
しもつく東に十かかけ。かくしてなきいてこれなかい
ずへ給ひて御のくらつくまゝこうくとのへかう
らくもこえさひつく十人つゞきくらみやの人〳〵まを

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用

山 六位モ目アキタルハナシ
目シヒハソノカキリニハアラデ
メノアキタルホトノ人ハサフ
ラハ又ハナシトイヘルナリナリ
判ヲモラシ・カモシハカミニ
ナラヒテ略セルカ

女御にらる海はうれしき此御にもたんこ条の御りらに
知なしそそらにらる海らしもろうてうまうり御
車ぞひ此方のさふひの人十二人えびそめれ志て
がさゆきてうりしりに女人つうまつるうじぐらめたの
大とのて此のとも三人、源中納言、右大弁
御れ大殿にううさきさいの文きまりしめすまゐ
とくづうまつらん、殿中のこそうはぐてなりさ河
らぬ殿上人も四位の位なれるし六位もめ河れる
ハなしこやゆちしませハぐらん人とも文乃此車にて
おきこ
おきこ明
ゆつうそらうりさるがしつうまつりまゐ御らる
海のしりにめれと二人左大臣とのてきこらハ女

御の此ろ海にまゐる大文いとまつし世まゐりしう
ゆかせとまうで給りんがまづしたしうる人まれば海
里給ぬ一の人たひ文ちれ此めのと三人そ
まうれきみらくていで給へいみな人むまれ給りぬ
志ていし二人とも給こるひつて女御のきみの御車れ
つれりはこらしお殿人たまひさるがしたりそれつ
ぎまゐ河のしりとくのまとしと女御志此方の
人ぞまひのしりまでこそけるこ文ちの此めれと
のいふやうれるし此りしれむまれ給ひ河なりし
こやまつうまつるどいうる人の一れうまのる
らん、我しいうるれば文の御さめみるも屋うどの志

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107
ガラス使用

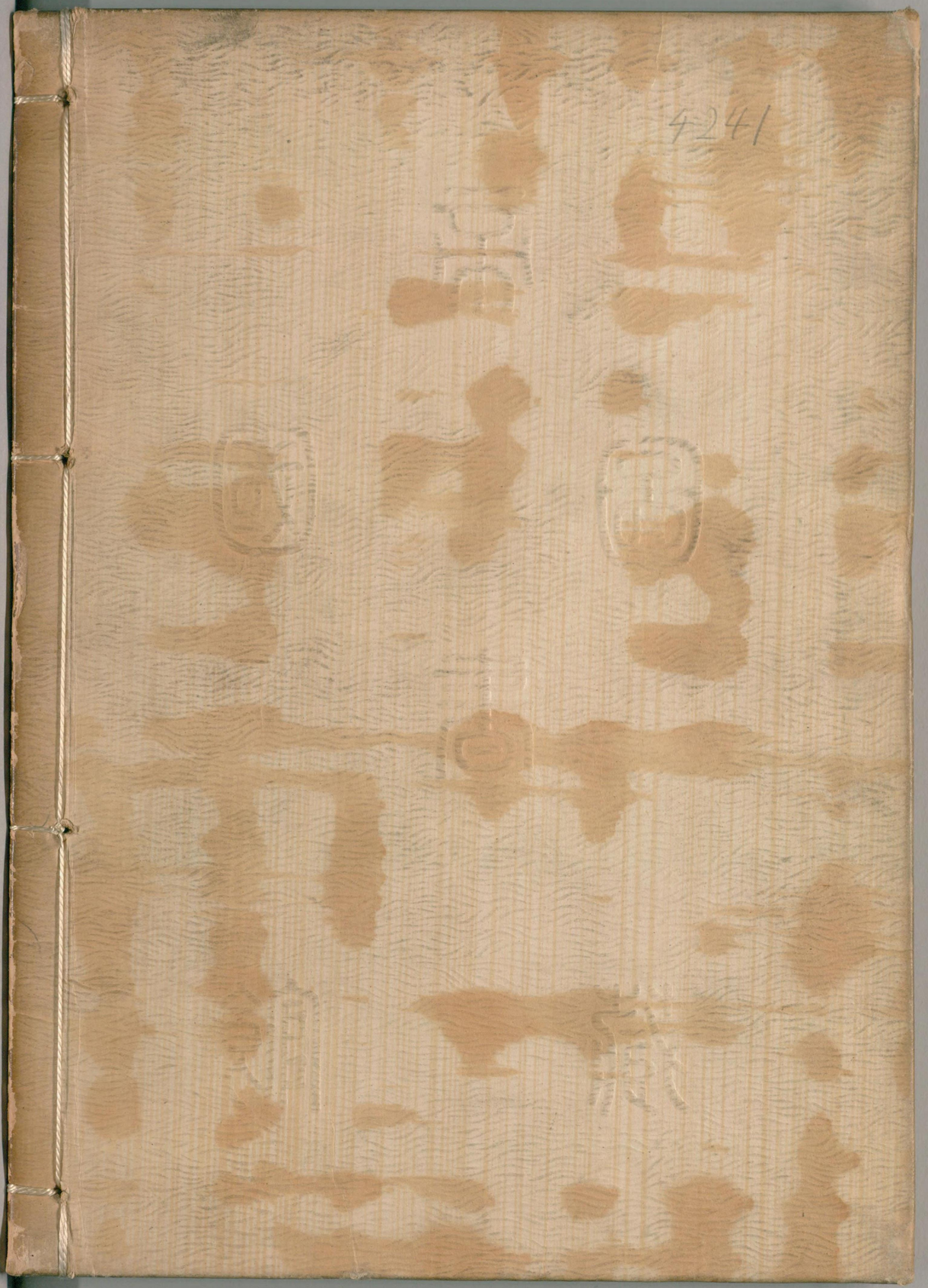
830
107

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107
ガラス使用

830
30
107

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用